

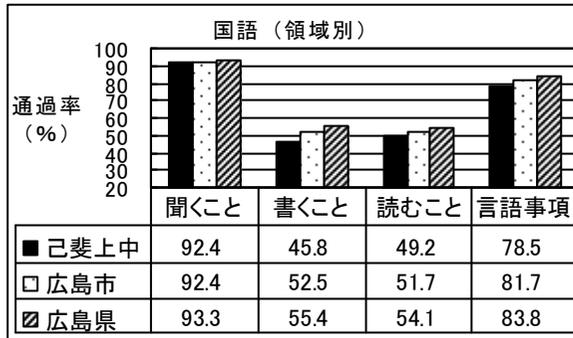
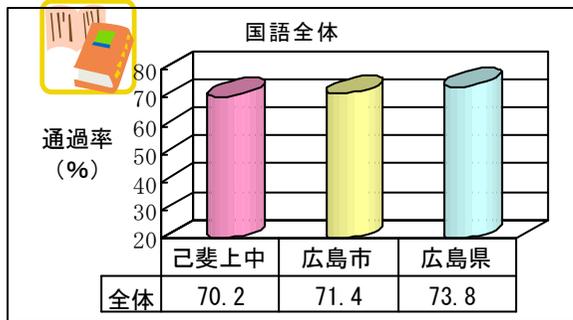
基礎・基本定着状況調査の結果

調査の概要

○日時 平成 27 年 6 月 9 日 ○対象 第 2 学年
○教科 国語・数学・理科・英語

★理科

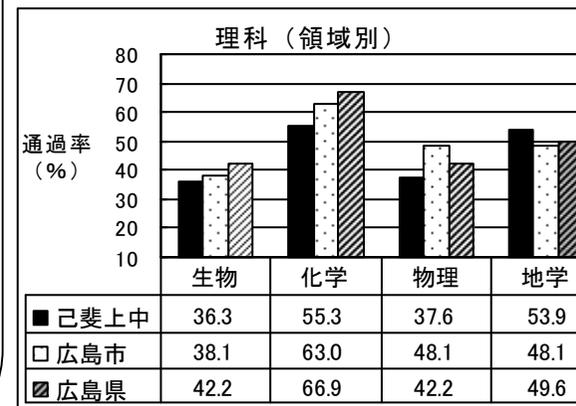
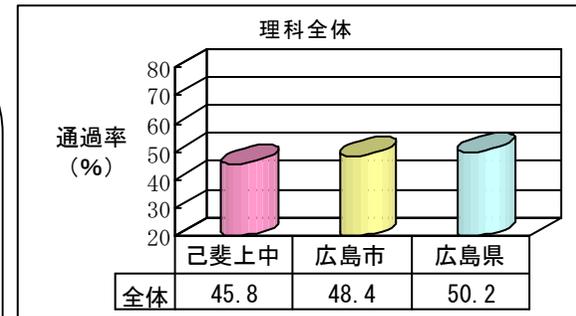
★国語



本年度は、県平均を 3.6 ポイント下回る結果となったが、昨年度より 2 ポイント上昇した。

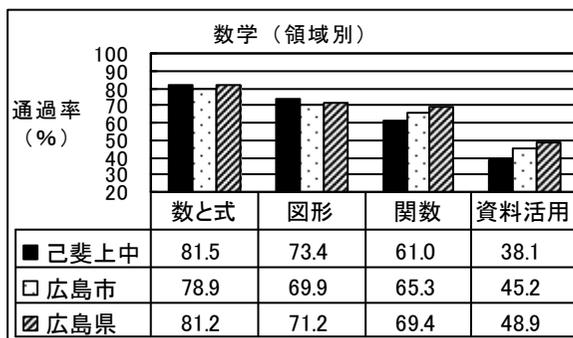
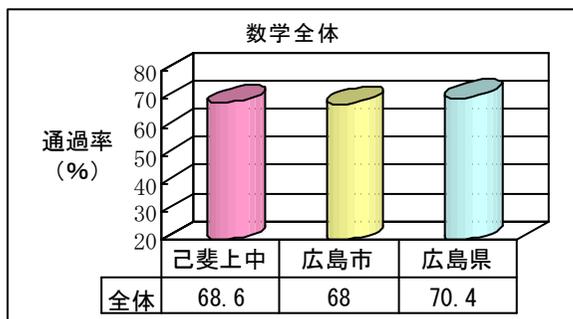
領域「言語事項」については、県と 5.3 ポイントの開きがあった。項目別では、「漢字の読み書き」は県を上回ったが、「故事成語」「表現技巧」が県を下回った。特に、「主語・述語の関係」の通過率が昨年度と同様低かった。これは、文節の働きや文節相互の関係の理解が定着していないためと考えられる。また、領域「書くこと」については「叙述の仕方の確認」では、県の半数以下の通過率となっているが、逆に実際の記述では県を 14 ポイント上回った。条件作文については根拠に基づいた考えを書けるようになってきたが、さまざまな記述の仕方に慣れていないことが伺える。

今後は、言語事項の確実な定着と、さまざまな記述の仕方の練習を行い、書く力を身につけていきたい。



本年度は、県平均を 4.4 ポイント下回る結果となった。領域別では、地学領域で県平均より 4.3 ポイント上回っている。これは、直前に学習した内容が出ていたことにより記憶に新しかったことが考えられる。逆に、生物領域では、学習してから、時間がたっていることで、学習に定着していないことが分かる。そのため長期休暇などで、1 学年の復習を行い、今後の学習につなげていくことや、通常の授業の中で、関連する 1 学年の復習を行っていくようにし、学習の定着を図ることが必要である。

★数学

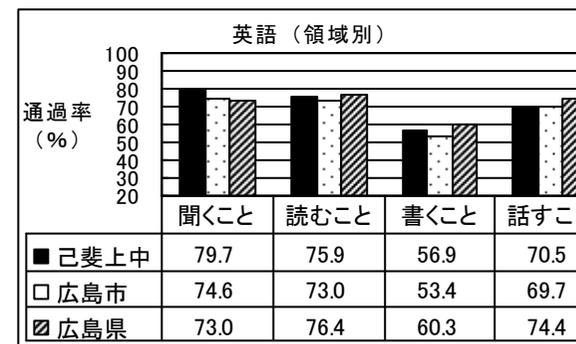
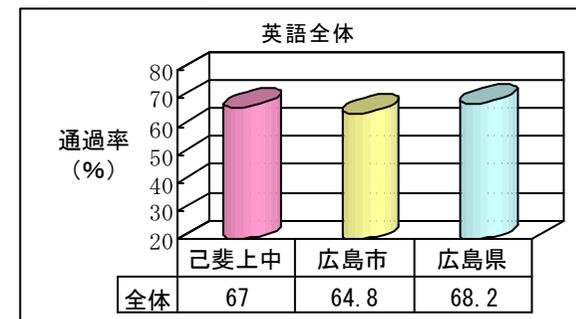


本年度は、県平均との比較では 1.8 ポイント及ばなかった。領域別にみると、「関数」は 8.4 ポイント、「資料の活用」は 10.8 ポイント、県平均を大きく下回っている。「数と式」「図形」は上回る結果となった。

「関数」では、用語の意味の理解不足、数学的な特徴をとらえた説明が書けないことがいえる。課題に取り組むときはまず、問題文から何が問われているのかが分かること、そして、数学の用語を用いたり、根拠を明らかにしたりして説明が書けているかという点をおさえていく。

また、「資料の活用」でも、中央値、最頻値という用語の意味の理解不足がいえる。用語と意味が一致していないので、反復練習により定着につなげていく。そのために、今後もプリントなど家庭でも継続して取り組める課題を出していき、力を身につけていきたい。

★英語



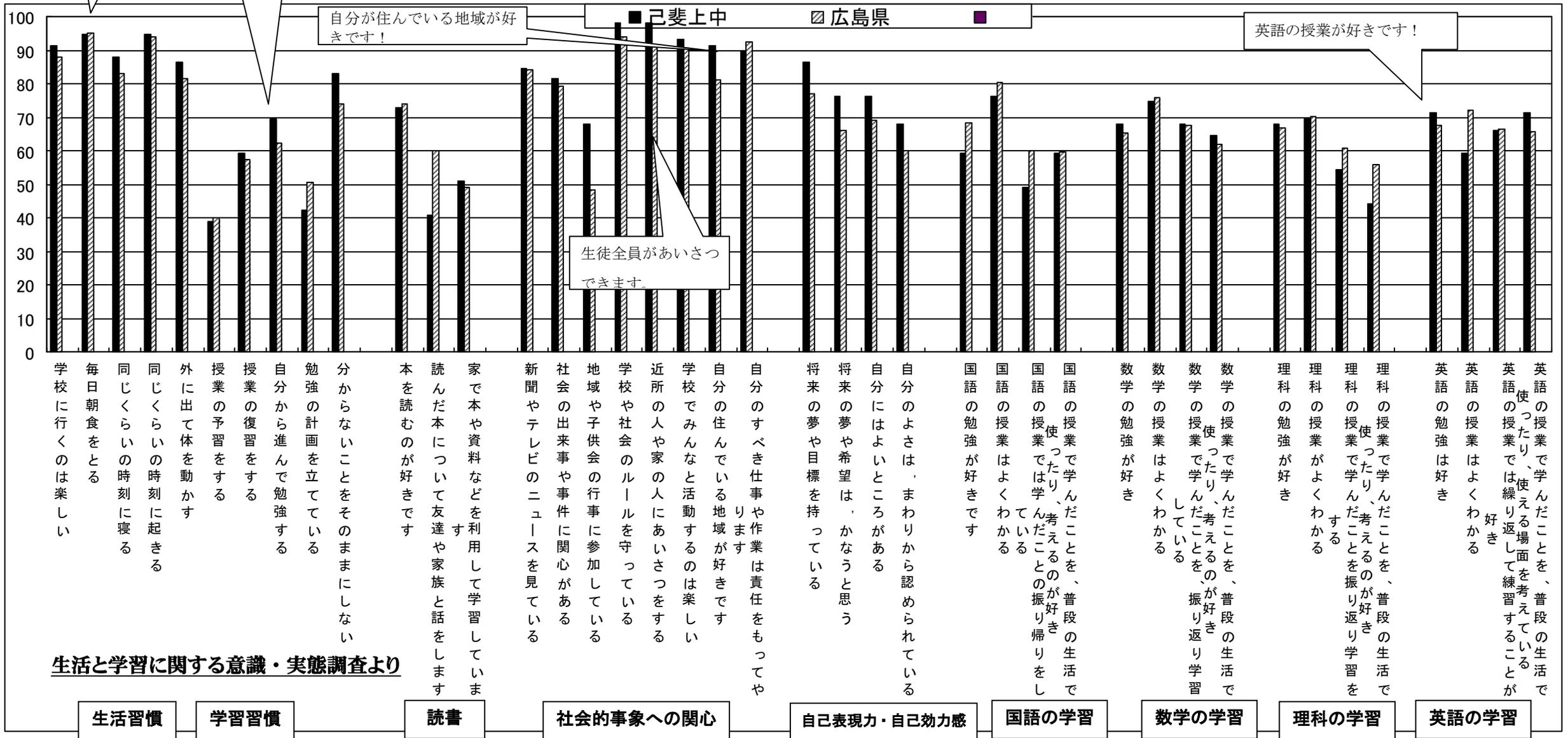
全般的に広島市よりはわずかに高く、県よりは低いという結果に終わった。

「聞くこと」についてのみ市・県を上回った。日頃の授業の中で英語音声を聞かせる時には、ねらいを持って聞くように指導を続けたい。また、音読をする際には、語と語の音のつながり、強弱、リズムなどを意識させ、自然な英語に近づけるよう指導することで、「聞くこと」の向上につなげたい。

「書くこと」の領域で特に正答率が低かったのは、What 名詞～?の疑問文だった。語順の覚え間違いが多い文型なので、短い例文を繰り返し読んだり書いたりさせて、正しい語順を身につけさせたい。

また、「つながりのある、まとまりのある英文を書く」問題も正答率が低かった。新出事項の導入をする時に、2 文以上のつながりのある例文を提示するようにし、生徒が「読む・書く」の自己表現活動で参考にできるよう工夫をしたい。

生活と学習に関する意識・実態調査



生活と学習に関する意識・実態調査より

- 生活習慣に関する項目はどの項目においても高い割合となっている。「毎日朝食をとる」「同じくらの時間に起きる」についてはいずれも90%をこえている。生活習慣の最も基本となるところであり、家庭の習慣に感謝します。さらに、「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒も多い。家庭・地域と今後もよい関わりを持ち、学力の向上が見られるよう工夫を図っていききたい。
- 学習に関して、「授業の予習をする」や「勉強の計画を立てる」ことについて、県平均を下回っている。昨年度に引き続き、家庭での予習の具体的な方法を指導をしながら、各教科の課題の工夫など改善を考えていきたい。一方、80%をこえる生徒が「分からないことをそのままにしない」とこたえており、生徒がより学習内容を理解できるよう努めていきたい。
- 社会的出来事への関心については、「ニュース」や「社会の出来事」に関心があるかという数値は低い。しかし、昨年同様に地域の中で「社会のルールを守る」「近所の人や家の人に挨拶をする」は100%に近くできている意識を持っている。また、「地域の行事に参加している」は、県平均を大きく上回っている。今後とも地域の皆さんに育てられ、見守られていることから地域に根ざした生徒の育成に努めていきたいと考えている。
- 自己表現力・自己肯定感に関して、いずれも県平均を10%程度上回っている。本校の生徒は「将来の夢や目標」をもっており、「自分のよさ」も80%近い生徒が感じている。夢や目標に一步でも近づけるよう、取り組みを工夫していききた